

2020年3月期決算概要

2020年5月18日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



新型コロナの影響あるも、売上・営利が過去最高

(億円)

	18年度	19年度	増減率	為替除く増減率
売上収益	5,995	6,289	+5%	+8%
売上総利益	3,265 (54.5%)	3,439 (54.7%)	+5%	+9%
一般管理費	1,787 (29.8%)	1,845 (29.3%)	+3%	+6%
研究開発費	477 (8.0%)	506 (8.0%)	+6%	+8%
その他収益費用	65	18	-	-
営業利益	1,066 (17.8%)	1,106 (17.6%)	+4%	+11%
調整後営業利益	1,221 (20.4%)	1,250 (19.9%)	+2%	+9%
税引前利益	1,027 (17.1%)	1,065 (16.9%)	+4%	
当期利益	795 (13.3%)	852 (13.5%)	+7%	

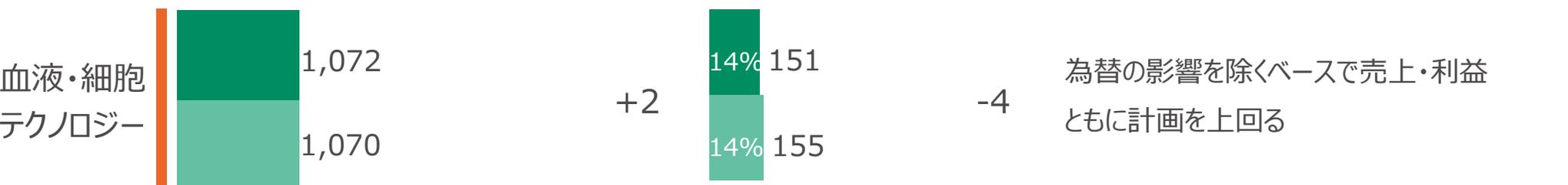
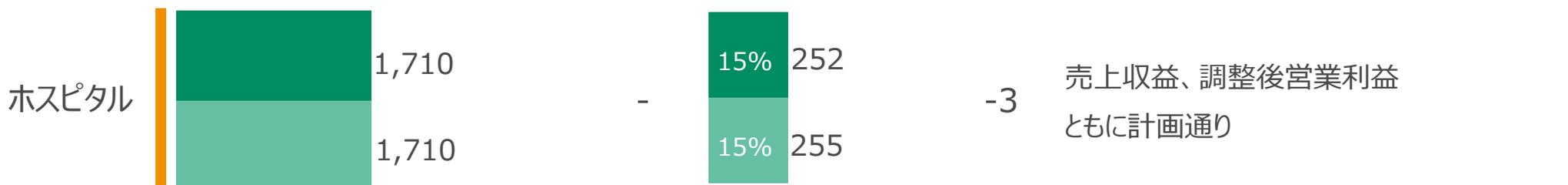
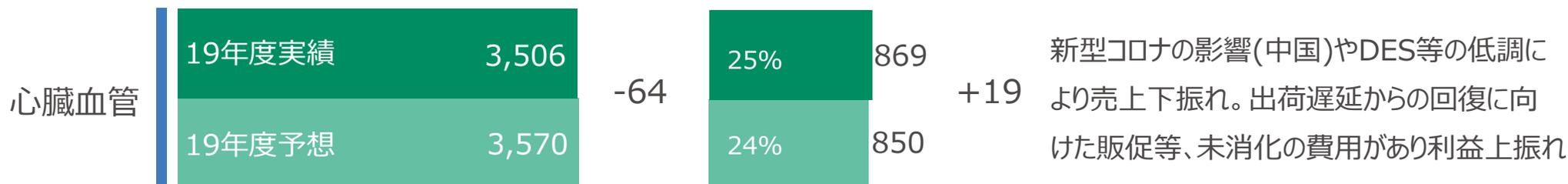
期中平均レート	USD	111円	109円
	EUR	128円	121円

- 売上収益：全カンパニーでプラス伸長。Q4において中国中心に新型コロナの影響受けるも軽微
- 調整後営業利益：高収益品の売上増に加え、心臓血管において一部費用未消化
- 当期利益：為替差損が対前年比で縮小（38→35億円）

19年度業績予想との比較

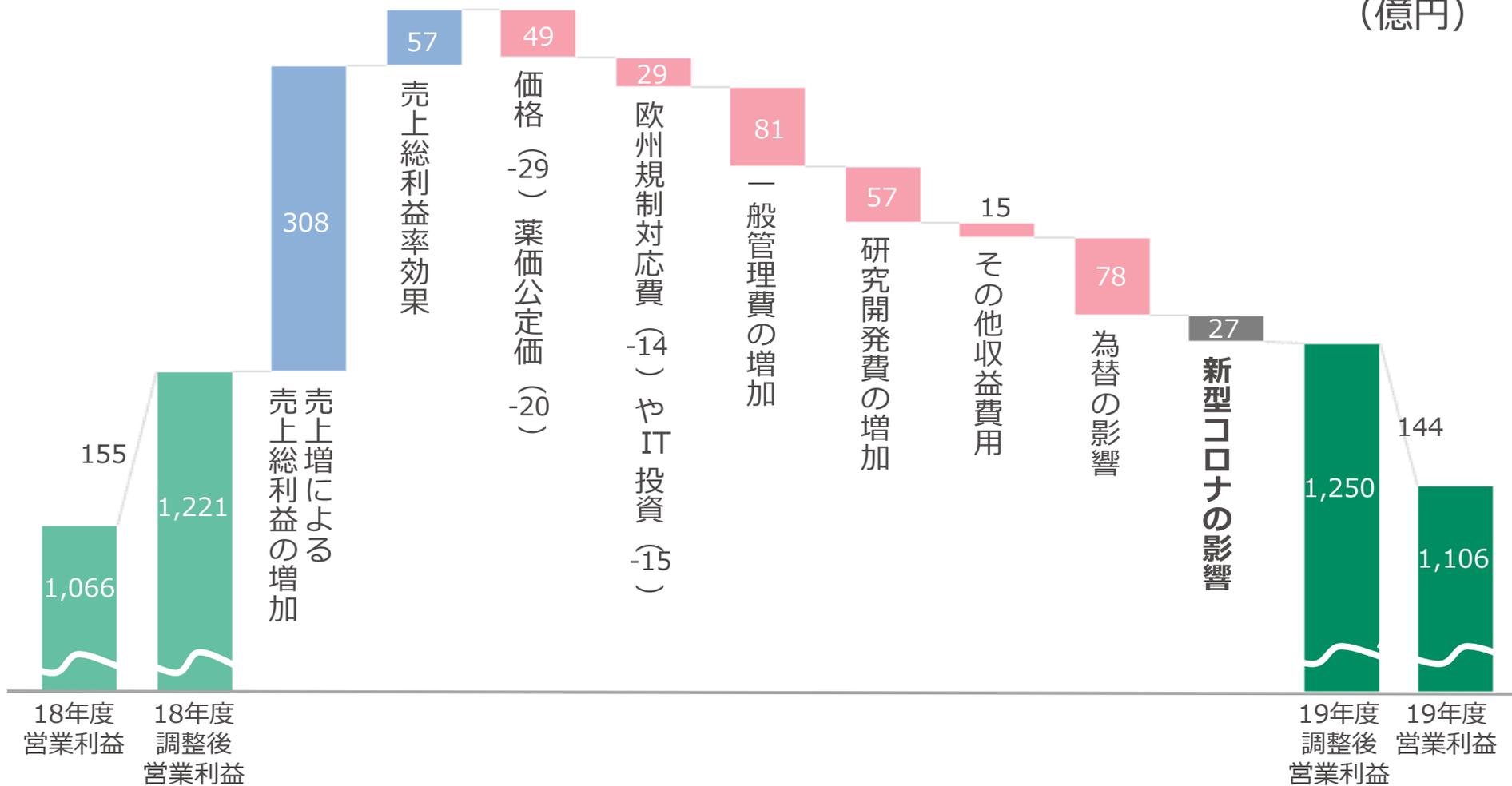
(億円)

売上収益		調整後営業利益		コメント
金額	増減額	金額	増減額	



調整後営業利益増減分析

(億円)

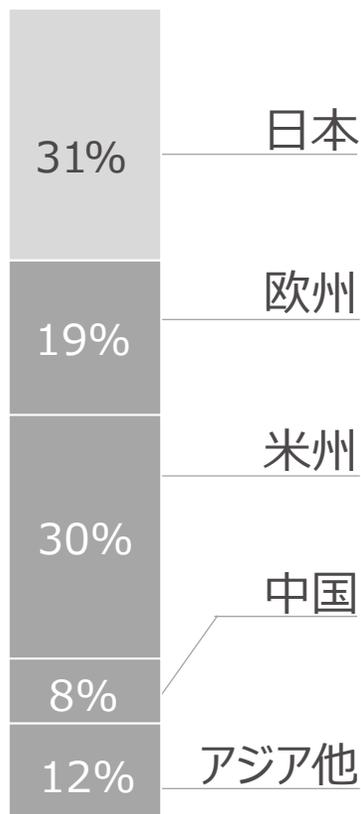


地域別売上収益

19年度
18年度

売上収益

100% = 6,289億円



売上収益前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
() 内は為替影響除く		
1,963 1,885	+4%	ホスピタルの疼痛緩和やアライアンスが大きく牽引。全体として安定伸長
1,211 1,204	+1% (+7%)	為替の影響大。除くベースで心臓血管が一桁後半の伸長、ホスピタルや血液・細胞テクノロジーは一桁半ばと堅調
1,914 1,756	+9% (+12%)	全カンパニーがプラス伸長。心臓血管は二桁伸長
473 [値]	+2% (+8%)	Q3まで二桁伸長した心臓血管がQ4に入り新型コロナウイルスの影響を受け大幅減速
728 688	+6% (+9%)	全カンパニーがプラス伸長。為替除くベースで心臓血管と血液・細胞テクノロジーは二桁伸長

カンパニー別売上収益

19年度
18年度

売上収益

100% = 6,289億円

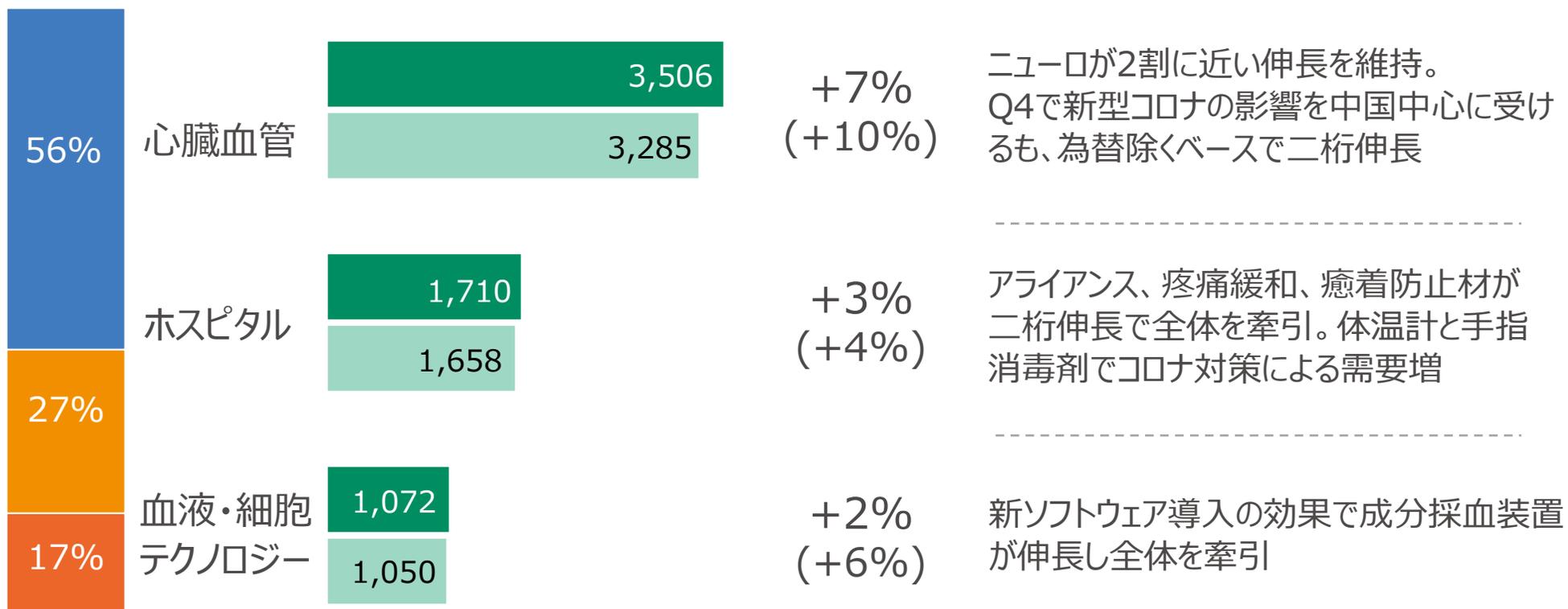
売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く



心臓血管：為替を除くベースで二桁の増収増益

(億円)

	18年度	19年度	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	3,285	3,506	+7% (+10%) <small>() 内は為替影響除く</small>	TIS : Q4に新型コロナの影響受けるも 為替除くベースで二桁伸長	+130
				ニューロ : 「WEB」やストローク製品が牽引し 2割に近い伸長	+75
				CV : 人工肺が牽引	+15
				血管 : Q4に新型コロナの影響受け僅かに減速	+1
調整後 営業 利益 (率)	809 (25%)	869 (25%)	+7% (+16%)	TISやニューロの売上拡大による利益増。 TIS全般とニューロにおいて一部費用が未消化	

ホスピタル: 売上・利益ともに計画通りの着地

(億円)

	18年度	19年度	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	1,658	1,710	+3% (+4%) () 内は為替影響除く	医療器 : インドネシア皆保険財政難等	-3
				医薬品 : 疼痛緩和や癒着防止材が牽引	+18
				DM・ヘルスケア: 新型コロナの特需で体温計が牽引	+5
				アライアンス : 計画通りの二桁伸長	+32
調整後 営業 利益 (率)	268 (16%)	252 (15%)	-6% (-7%)	山口工場増設による償却費増を受けたものの 計画通りの着地	

血液・細胞テクノロジー：為替を除くベースで対計画上振れ

(億円)

	18年度	19年度	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上収益	1,050	1,072	+2% (+6%)	血液センター：成分採血が牽引。 装置の新ソフトウェアによる牽引に加え、新型コロナウイルス回復者からの血漿採取の需要増	+24
				アフレス治療：先進国における後継装置への切替の反動	-1
調整後営業利益(率)	157 (15%)	151 (14%)	-4% (+10%)	想定以上の為替影響。 費用コントロールも寄与し為替影響除くベースで計画上振れ	

19年度期末配当案は14円

■ 新型コロナ影響を鑑みて19年度配当案を年間28円とする（当初予想から変更なし）

	19年度 実績
当期利益（億円）	852
EPS（円）	114
配当案/株（円）	28.0 中間 14.0 期末 14.0
配当性向	24.6%

主なトピックス

全社

- 6年連続で「健康経営銘柄」に選定（3月）
- オーストラリアの森林火災に関して、寄付と支援活動を実施（3月）
- 温室効果ガス排出量削減目標が、SBTイニシアチブの認定を取得（3月）



事業

- 袋状脳動脈瘤塞栓デバイス「Woven EndoBridgeデバイス」の国内における製造販売承認取得を発表（1月）
- 血流改変ステント「FRED」の米国・販売承認取得を発表（1月）
- 血流改変ステント「FRED」、日本で保険収載（1月）
- 強オピオイド鎮痛薬の「フェンタニルクエン酸塩 1 日用テープ」を日本で発売（2月）



全カンパニーが新型コロナの感染拡大防止や治療へ貢献

心臓血管：重症患者の治療に寄与「ECMO」

1月より増産着手

医師・技士・看護師らのチーム支援



ホスピタル：家庭から院内まで、感染の拡大防止に向けて

感染管理に配慮した体温計

院内感染対策として幅広い手指消毒剤を提供



血液・細胞テクノロジー：最先端の治療をサポート

回復期血漿の採取で成分採血装置を活用

病原体低減化技術、新型コロナウイルスへの有効性証明

血中サイトカインの減少を目的に、遠心型血液成分分離装置が米国で緊急使用許諾



19年度パイプライン製品のローンチ状況

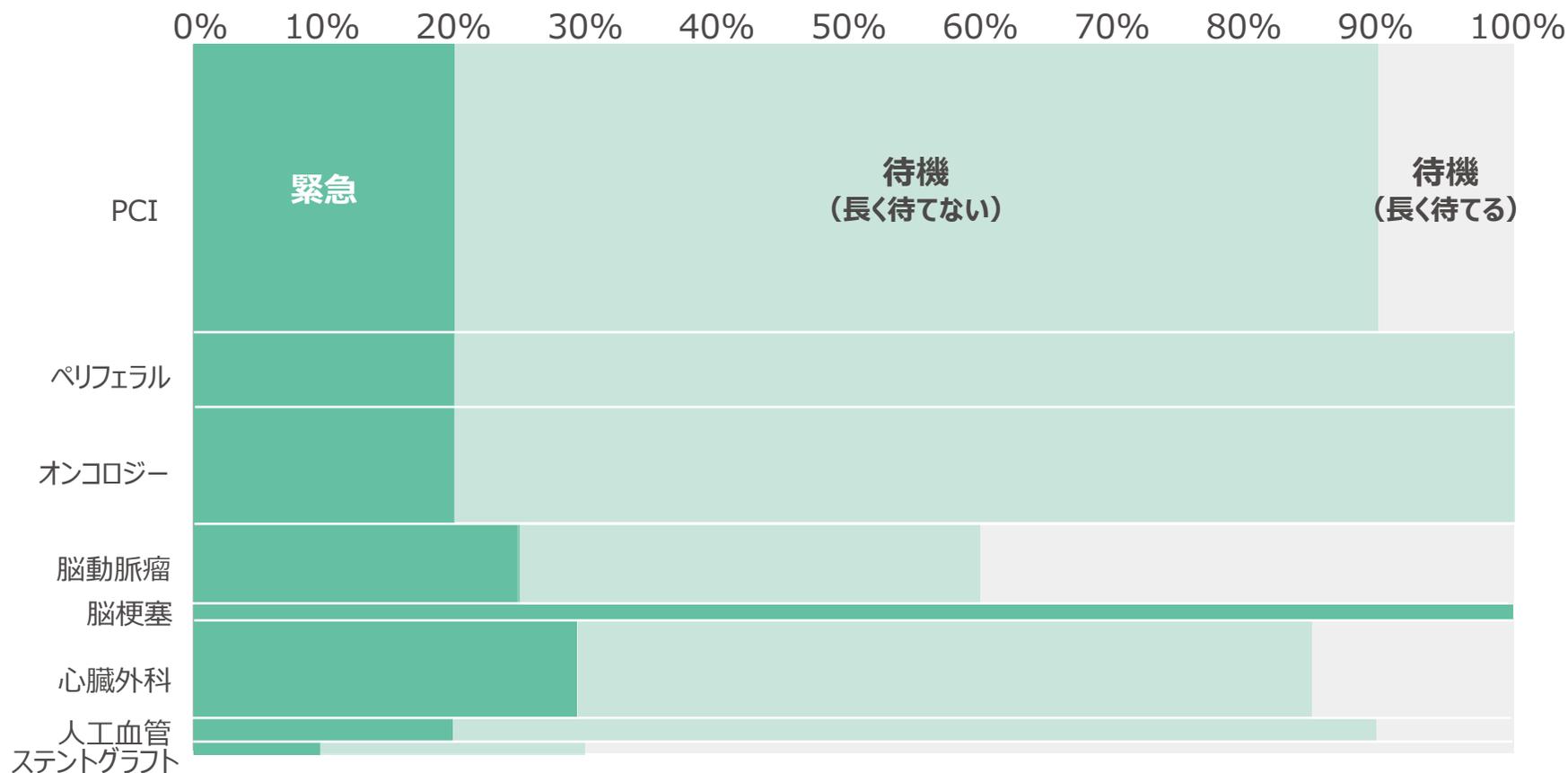
領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタルラジアル用止血デバイス	日	FY21	医療器	次期シリンジポンプ	日	FY20
心臓	PTCAバルーン	欧亜	済み	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	済み
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米	済み		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	済み
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米	済み		血糖測定システム	日	FY20
	ミニ・バルーン	欧米	済み		パッチ式インスリンポンプ	日	済み
	血栓吸引カテーテル	日	済み		次期血圧計	日	済み
	ステントリーバー	日	済み		次期体温計	日	FY20
CV	次世代人工肺	日	FY20	細胞処理	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	FY20				
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日	済み				

20年度業績予想

- 新型コロナによる影響の合理的算定が困難な為、現時点では未定
- 業績予想の開示が可能となった段階で速やかに開示
- 影響の考え方
 - 心臓血管への新型コロナの影響は比較的大きく、領域と地域によって異なる。
また、時間軸の考慮が必要
 - ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は限定的

心臓血管への新型コロナ影響の考え方

- 領域・症例タイプ毎（緊急/待機）に影響が異なる
- 症例タイプのみで売上への影響は測れない。様々なファクターが影響を及ぼす
例：病院財政、施術場所(病院/オフィス)、地域性、学会の提言、販路(直販/代理店)、患者さん心理など



ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は限定的

ホスピタル

- 医療器・医薬品 : 医療インフラや入院関連製品が多くを占める
- DM・ヘルスケア : DMは慢性疾患かつ在宅療法向け
ヘルスケアは体温計の特需反動に注視
- アライアンス : 慢性疾患向けの医薬品受託が多い

血液・細胞 テクノロジー

- 血液センター : 手術延期に伴う需要減が一部あるものの、
採血効率高める成分採血の需要増
- アフェシス治療 : 慢性疾患向けが多く、需要変動は限定的
- 細胞処理 : 製薬企業や研究施設による細胞療法研究の
減速に注視

20年度パイプライン製品

■ 新型コロナによる影響を一定レベル織込むも、更なる開発遅延等に要注視

領域	製品	地域	領域	製品	地域
心臓	ステーラブルシース	日	血管	腹部ステントグラフト	米
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	医療器	次期シリンジポンプ	日
イメージング	IVUSカテーテル	日		次期針刺し防止機構付留置針	日
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧		Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜
	末梢血管塞栓用プラグ	米	医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日
脳	血流改変ステント	日米	DM・ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日
	バルーン付きガイドカテーテル	欧		血糖測定システム	日
	頸動脈ステント	日		次期体温計	日
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日			
カーディオ バスキュラー	次世代人工肺	日			
	人工心肺装置(再出荷)	日			
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル			

20年度 流動性確保とキャッシュアロケーション

流動性 確保策

- 19年度400億円の資金調達済み（19年度末資金 月商比約3.2ヶ月）
- 更なる備えとして、上記とは別枠で600億円の融資枠を設定済

20年度 キャッシュ アロケーション

- 新型コロナ終息後の更なる成長へ成長投資は継続
※「**持続的かつ収益性のある成長**」に資するM&A機会は追求
- 足元の不急な経費・投資案件は見直し
- 配当は年間28円で当面据え置き
(コロナ影響が終息後、従前の方針に従い、増配へ回帰)

参考資料

事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	509 (+6%)	2,996 (+11%)	862 (+8%)	1,384 (+14%)	395 (+9%)	356 (+13%)	3,506 (+10%)
うちカテーテル※	380 (+6%)	2,460 (+13%)	701 (+9%)	1,095 (+16%)	370 (+9%)	293 (+12%)	2,840 (+12%)
ホスピタル	1,329 (+4%)	381 (+4%)	93 (+3%)	91 (+10%)	25 (-2%)	172 (+2%)	1,710 (+4%)
血液・細胞テクノロジー	123 (-2%)	948 (+7%)	256 (+5%)	440 (+8%)	53 (+5%)	200 (+10%)	1,072 (+6%)
合計	1,963 (+4%)	4,326 (+10%)	1,211 (+7%)	1,914 (+12%)	473 (+8%)	728 (+9%)	6,289 (+8%)

※TIS事業とニューロバスキュラー事業の合計
() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	18年度	19年度	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	874	898	+24	+3%	+6%
販促費	182	197	+14	+8%	+10%
物流費	136	139	+3	+2%	+5%
償却費	143	189*	+46	+32%	+35%
その他	451	423*	-29	-6%	-4%
一般管理費計	1,787 (29.8%)	1,845 (29.3%)	+59	+3%	+6%
研究開発費	477 (8.0%)	506 (8.0%)	+29	+6%	+8%
販管費合計	2,263 (37.8%)	2,351 (37.4%)	+88	+4%	+6%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え

四半期の動き

(億円)

	18年度Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上収益	1,559	1,525	1,548	1,629	1,588
売上総利益	843 (54.1%)	852 (55.8%)	863 (55.8%)	872 (53.5%)	853 (53.7%)
一般管理費	467 (29.9%)	445 (29.2%)	451 (29.1%)	472 (29.0%)	477 (30.1%)
研究開発費	116 (7.5%)	118 (7.8%)	125 (8.1%)	127 (7.8%)	136 (8.6%)
その他収益費用	21	4	13	-2	4
営業利益	282 (18.1%)	292 (19.1%)	300 (19.4%)	271 (16.6%)	244 (15.3%)
調整後営業利益	309 (19.9%)	339 (22.3%)	331 (21.4%)	314 (19.3%)	266 (16.7%)

四半期	USD	110円	110円	107円	109円	109円
平均レート	EUR	125円	123円	119円	120円	120円

調整後営業利益：調整額

(億円)

	18年度	19年度
営業利益	1,066	1,106
調整① 買収無形資産の償却費	+146	+157
調整② 一時的な損益	+9	(※) -13
調整後営業利益	1,221	1,250

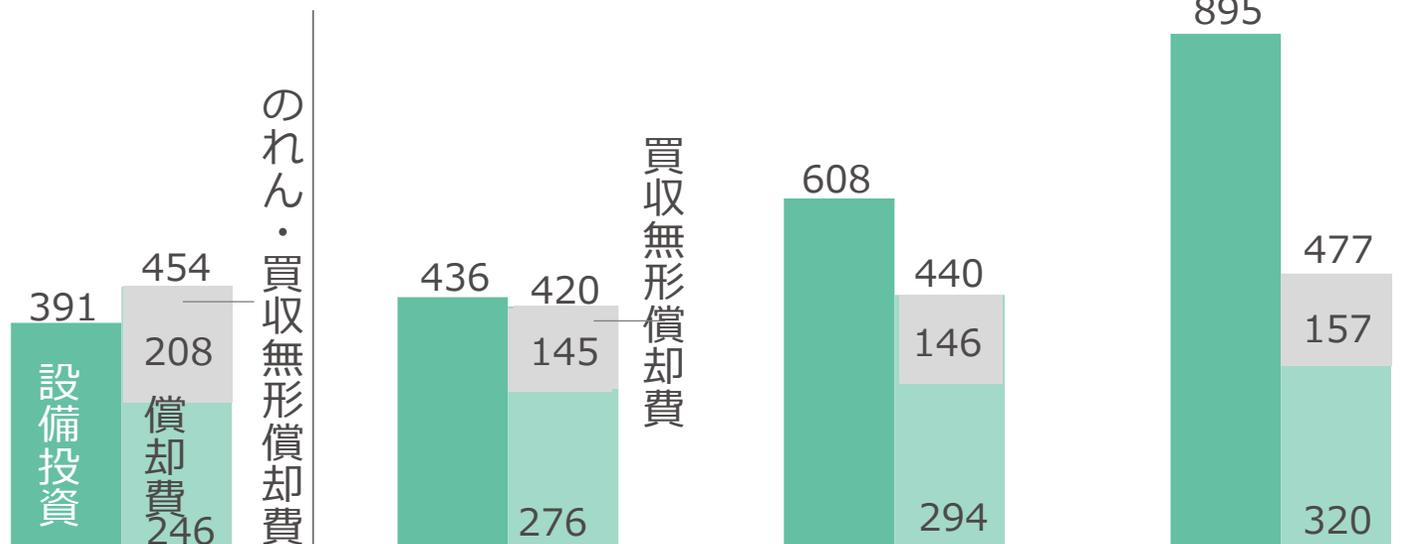
※ 調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※) 19年度 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+15
プエルトリコ工場災害保険金受取	-12
その他	-15

設備投資と研究開発費

(億円)



- 19年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
 - 買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む
- 19年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず

設備投資は建設仮勘定計上ベース

- 主にカテーテル、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む
 - 18年度：24億円
 - 19年度：48億円

16年度
日本基準←

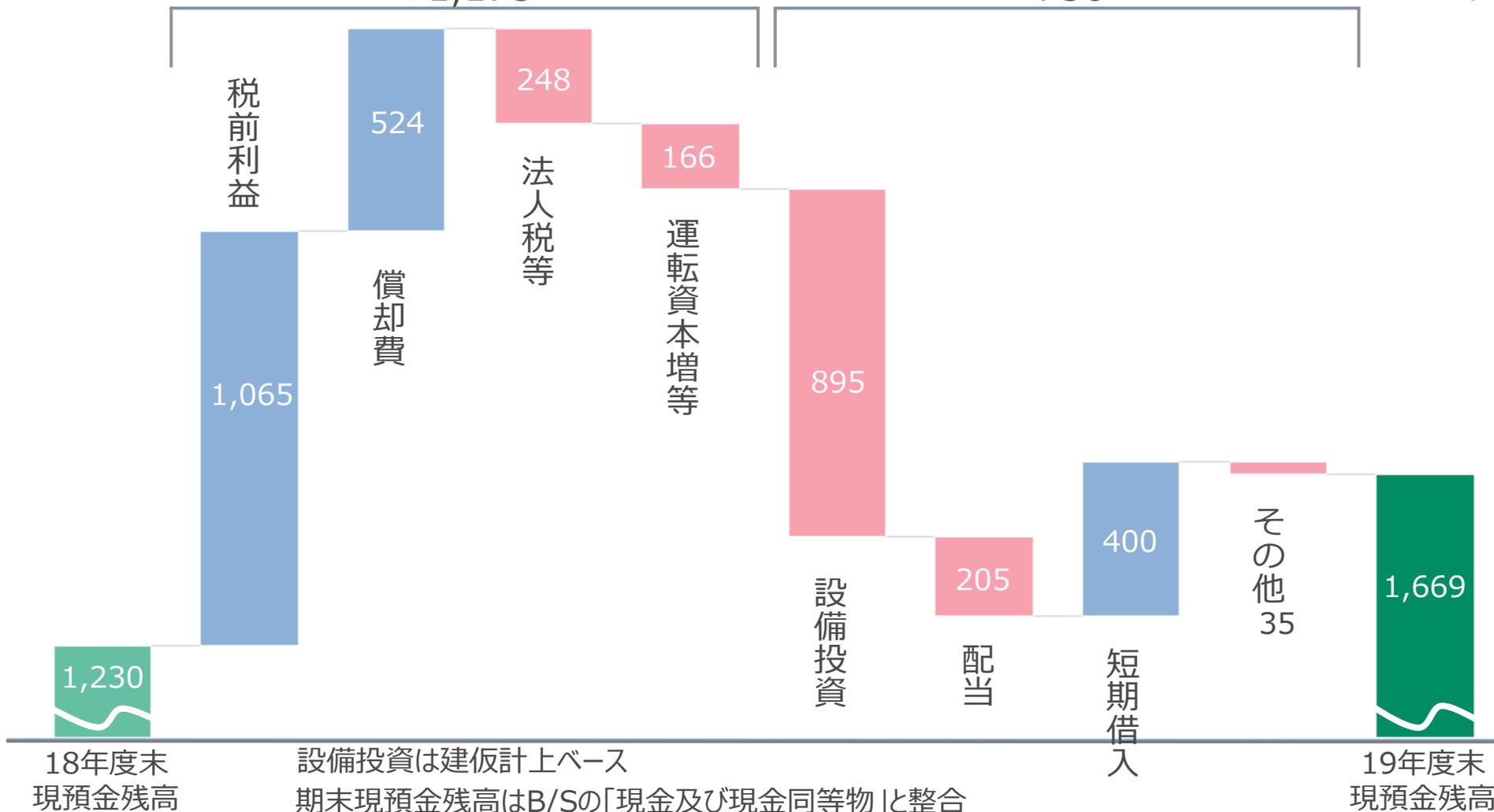
17年度
→IFRS

キャッシュフロー

営業キャッシュフロー
+1,175

投資・財務キャッシュフロー
-736

(億円)



為替感応度

1 円の円安に対しての年間影響額

(億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況 (2020年4月30日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	452億円 (90.5%)	23百万株 (3.1%)
合計	952億円 (95.2%)	49百万株 (6.5%)

転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：5百万株(2020年4月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.8%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。